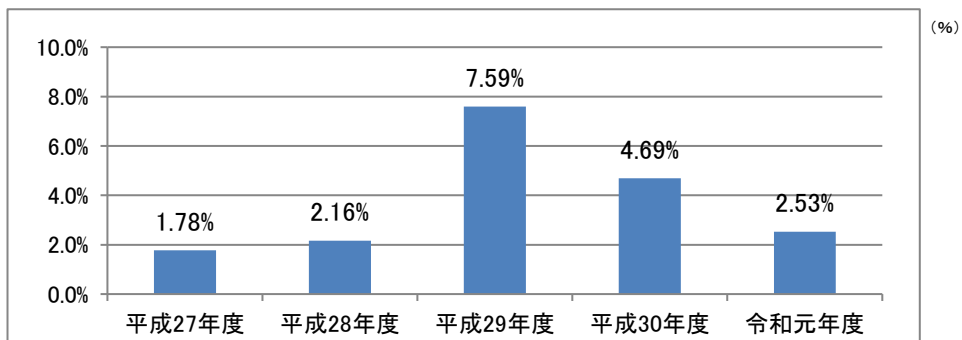


25 CPC(臨床病理検討会)の検討症例率

○項目の解説

CPC(clinicopathological (または clinicopathologic) conference、臨床病理検討会)とは、臨床医・病理医などが、治療中に院内で死亡し病理解剖が行われた症例について診断や治療の妥当性を検証する症例検討会のことで、診療行為を見直すことで得られた知見を、今後の治療に役立てるために行われます。医学生・研修生の教育にも寄与するもので、その取り組みの状況を表現する指標です。

○当院の実績



○当院の自己点検評価

平成26～28年度のCPCは、年間4回(1症例/回)行われていましたが、平成29年2月より、研修医教育の一環として、年間8～9回(2例/回)のCPCを行っており、年間16～18症例の病理解剖をCPCで検討しております。平成29年度のCPCでの検討症例率が過去4年の3倍ほどに増加しているのは、この新CPC方式によるものと考えられますが、平成30年度は、発表する研修医数の減少(他院ローテーション時にCPC発表済みの研修医の増加)により、開催されたCPCも減少し、患者死亡数も毎年ほとんど不変のため、この検討症例率も減少しております。

病理解剖症例のCPCでの検討は、院内で行われた医療行為の究極の質保証の手段です。高度な医療を提供する大学病院では、院内死亡例に関しては、病理解剖はなるべく多く行われるべきであり、解剖が行われたものは全例CPCで検討されるのが理想であると考えます。しかし、全国的に病理解剖数は毎年減少しており、質の高いCPCはこの減少を食い止める手段となる可能性があると考えております。

次年度以降のCPCのあり方については、各診療科との協議を行っており、現在の「教育型CPC」に加え、その症例の診療に関与した臨床医と病理解剖に関与した病理医を中心として、双方の立場から意見交換をする「従来型CPC」の2本立てで実施する予定です。

○定義

当該年度1年間のCPC(臨床病理検討会)のCPC件数を死亡患者数で除した割合(%)です。

自院での死亡退院を対象とします。ただし、学外で病理解剖が行われた症例について、病理解剖を担当した医師を招いて実施した症例は検討症例数に含めます。

○算式

分子:CPC件数

分母:死亡患者数